

## 令和7年度埼玉県廃棄物処理施設専門委員会 議事要旨

日 時	令和7年12月24日（水） 午後2時15分から3時00分まで
場 所	埼玉県県民健康センター1階大会議室C（さいたま市浦和区仲町3-5-1）
委 員 名	荒井委員、尾形委員、伴委員、藤倉委員、藤吉委員（委員長）、松本（泰）委員、松本（利）委員
県担当者	産業廃棄物指導課（事務局） 宮原課長、森副課長、中山主幹、莊埜主査、眞家主事
事 業 者	申請者及び関係会社の担当者（以下「申請者」という。） 8名

### 【1. (株)クリーンテックサーマルの産業廃棄物処理施設設置許可申請について】

質問・意見		説明・回答
1	【関係市からの意見への対応について】  関係市からの、設置工事及び施設の運転にあたって周辺環境への配慮と近隣からの相談・苦情が寄せられた際の対応についての意見についてはいかがか。	これまでA系B系で産業廃棄物の処理を行ってきたが、これまでも周辺環境に配慮して処理を行ってきた。今後、C系が加わると全体の規模も大きくなるため、その点も考慮した上でこれまで以上に周辺環境に配慮しながら引き続き処理を行っていきたい。設置工事も周辺に配慮しながら進めていきたい。 (申請者)
2	【施設の運転管理について】  ・申請者が発行している広報誌に運転員のインタビュー記事として、安定燃焼のためには混合割合が大切であるとあり、非常に良いことだと感じた。こういった意識は他の従業員にも共有されているのか。また、それを徹底するために教育訓練を行っているのか。 ・ガス量はどのように管理されているのか。 ・誰を技術管理者とするのか。	・処理の効率を良くするための教育、運転を行っている。毎月ミーティングを行い、反省点を洗い出し安全運転と燃焼効率向上に努めている。 ・ガス量は常にガス量計でリアルタイムの値をモニターで確認し、申請値を超えないように運転している。 ・技術管理者は役員でもある工場長が引き続き務める予定である。 (申請者)

3	<p><b>【塩化水素の除去について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物カロリー変動シミュレーションでは塩化水素の除去率が90%必要となるが、能力計算根拠資料では除去率95%ほどが施設の処理能力の限界のようである。塩化水素の除去率90%というのは硫黄酸化物も含めて安定して除去できるのか。</li> <li>・除去率90%は計算上であり、実際の稼働状態ではありえない数値なのか。</li> </ul>	<p>・塩化水素の除去率が90%必要となるのはカロリーの高い廃プラのみを投入して運転した場合である。実際には廃プラのみで運転することは計画していないが、施設としては廃プラのみでの運転もできるので、その場合でも塩化水素が十分除去でき排出規制値を守れることを示した。</p> <p>・硫黄酸化物については、廃棄物由来の硫黄分が少ないため除去を考慮しなくてもよいレベルではあるが、アルカリ薬剤との反応は想定されるので余裕をもって計算しており問題はないと考えている。</p> <p>(申請者)</p>
4	<p><b>【大気環境への影響について】</b></p> <p>新設するC系の環境影響評価のバックグラウンド濃度については既存施設の稼働状況を踏まえて評価されている。最近の測定結果では、測定値が下がっている物質もあり、周辺環境が良くなっていると見受けられるので、引き続きしっかりと管理して稼働していただきたい。ただし、短期濃度の予測結果において二酸化硫黄は生活環境の保全上の目標に近い数値が出ているので、しっかりと管理していただきたい。</p>	<p>引き続き注意しながら運転管理に努めていただきたい。</p> <p>(申請者)</p>
5	<p><b>【悪臭の環境影響評価方法について】</b></p> <p>悪臭の環境影響評価について、既存施設を類似施設として評価しているが、既存施設と新規施設が同時に稼働しても周囲に影響は生じないか。</p>	<p>そのとおりである。</p> <p>既存施設の敷地境界での測定値は規制基準値以下であることから、既存施設の悪臭防止対策は効果的だと考えられる。新規施設も同様の悪臭防止対策を実施するため、敷地境界での規制基準を満足できるものと考えている。</p> <p>(申請者)</p>

6	<p><b>【リチウムイオンバッテリーの発火事故防止対策について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最近、リチウムイオンバッテリーの発火事故が多いが事故防止対策はどのように考えているか。</li> <li>・A系B系ではリチウムイオンバッテリー起因の発煙や発火はあったか。</li> <li>・小型家電の受け入れは行っているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在行っている対策としては、排出者への周知と受け入れ時の展開検査を行っている。ピットでの発火が一番リスクとして高いため新規施設ではピットを介さずに直接焼却炉に投入できるラインを設ける。ピットの廃棄物についてはサーモグラフによる温度管理やクレーンオペレーターによる監視をして異常があった場合に早期発見ができるようにしている。</li> <li>・ピットではないが、受け入れ後の一時仮置き段階で燐って煙が出たことは数回ある。すぐに発見し消火したため大事には至らなかったが、受け入れ段階での管理が非常に重要だと捉え重点的に対策をとっている。</li> <li>・小型家電は受け入れていない。</li> </ul> <p>(申請者)</p>
7	<p><b>【受け入れる廃棄物について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物関連の廃棄物を受け入れると含水率が高くなると思うがどのような処理をするのか。</li> <li>・C系をロータリーキルン炉にした理由はあるのか。</li> <li>・搬入される廃棄物はどのようにA系B系C系に振り分けられるのか。</li> <li>・C系で受け入れる予定の廃棄物は決まっているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在も動物関連の処理は行っているが、感染性廃棄物と同様にプラケースに入る大きさのものを受け入れてそのまま焼却炉に投入しており前処理は行っていない。</li> <li>・A系のキルンストーカ炉とB系の感染性廃棄物に強いバーチカル炉とは異なるタイプの炉を導入してより幅広い性状の廃棄物を効率的に処理できるようにC系はロータリーキルン炉を選択した。</li> <li>・事前予約の段階で廃棄物の性状をある程度把握し、受け入れ時にも担当者が実際に確認してどの炉に振り分けるのが最適か判断していく。</li> <li>・基本的には現状のA系B系で受け入れている廃棄物の延長線上と考えている。より幅広い廃棄物の品目に対応できるように</li> </ul>

		特管廃棄物の許可を新たに取得するが、現時点では具体的な物は決まっていない。 (申請者)
8	<p><b>【臭気対策について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臭気については、焼却施設の稼働のみならず運搬や保管する際にも問題になる。C系の保管場所における臭気の拡散防止策の全体像を教えてほしい。</li> <li>・臭気や音は、従業員の方が自らの五感を使い日常点検をすることが大変重要なので機械に頼るだけではなく、五感を使った日常点検を徹底し周囲環境に悪影響を及ぼさないようしっかりと維持管理してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保管場所となるピット内は負圧環境にし、空気は燃焼用空気として使用する。ピットのプラットフォームでは粉じん対策も兼ねて断続的に消臭剤を入れたミストを噴霧する。臭気が出そうなものは密閉容器を用いて保管をする。</li> <li>・現場の人間は臭気に慣れて麻痺しているため、普段現場にいない事務員も動員して定期的に点検している。</li> </ul> (申請者)
9	<p><b>【搬入時の安全対策について】</b></p> <p>搬入時の車両の安全対策をしっかりとしてほしい。</p>	<p>搬入車両に対しては、運転手への案内の徹底やピットへの車両落下防止のための車止めを設置している。</p> (申請者)

## 【2. 次回会議の開催の要否について】

質問・意見		回答
1	本会議をもって審議を終了とし、意見書の作成に入ってよいか。 (委員長)	異議なし。 (各委員)